



まちの話題

清き1票でメニューが決まる！子どもたちがはじめての投票体験

福島養源小学校で給食総選挙

子どもたちが食べたい給食を投票で決定する「給食総選挙」が1月23日、福島養源小学校で開催されました。この取り組みは、松浦市選挙管理委員会が、子どもたちに選挙への関心を持ってもらう初の試みとして実施したもので、実際の投票箱や記載台などを使用し、本番と同じような手順で投票を行い、選挙をリアルに体験しました。給食委員会6人が「からあげ党」、「アジフライ党」、「ハンバーグ党」を立ち上げ、栄養教諭の金田知佳さんと一緒に考えたメニューの魅力や思いを全校児童の前で訴えました。応援演説後、子どもたちは自分がこれだ、と思ったメニューに投票し、翌日に行われた開票作業の様子や投票結果の発表までを見届けました。今回、全校児童と教職員123人が参加。インフルエンザが流行した影響で投票率は85.4%。得票は、「ハンバーグ党」62票、「アジフライ党」34票、「からあげ党」27票で、当選した「ハンバーグ党」のメニューが、3月11日の給食として提供されます。子どもたちから「本物の選挙みたいだった。緊張したけど楽しかった」といった感想の声もあがり、選挙の仕組みや自分たちの意見が選挙によって反映されるプロセスを楽しく学ぶ機会になりました。

①各党の応援演説

(写真右から、徳田明日香さん、川原ひばりさん、益田永遠くん、よしながゆうたろうくん、吉永悠太郎くん、志水小波さん、金子脩汰くん▶)

②投票の様子



重大事故に備えて原子力防災訓練を実施

長崎県原子力防災訓練

長崎県原子力防災訓練が2月2日、本市を含む県北部地域を中心に実施されました。この訓練は、九州電力玄海原子力発電所での事故を想定し、緊急時における通信連絡体制の確立や緊急時モニタリング活動など、災害対策の習熟と防災関係機関相互における協力体制の強化を図るとともに、住民の原子力防災に対する理解を促進するため、毎年実施されています。住民避難では、黒島地区、飛島地区、青島地区の住民らによる島内の一時退避施設への退避訓練の実施や、介護老人保健施設「よかところ」から佐世保市内の福祉施設への避難訓練、鷹島町の床浪港から調川港への船舶での海上避難のほか、志佐中学校1年生50人の東彼杵町への集団避難などが行われ、避難先の彼杵児童体育館では陸上自衛隊第16普通科連隊（大村）による炊き出しも実施されました。東彼三町に避難した人たちは、被ばくの有無を調べるスクリーニング検査や除染を疑似体験し、災害時に開設される避難所運営などの防災知識を深めました。訓練で緊急時の情報伝達や避難手順などを確認し、その結果を受けてさらに改善が図られることとなります。



高低差のあるコースを疾走

鷹島町リレーマラソン大会

第11回鷹島町リレーマラソン大会が1月26日、鷹島モンゴル村で開催されました。

大会には、市内外から小学生の部に10チーム、中学生・一般の部に11チームが参加。

選手たちは、敷地内の1周1,000mのコースをたすきをつないで10周し、チームワークと健脚を競いました。

上位の結果は次のとおりです。

【小学生の部】	【中学生・一般の部】
①調川ランナースA 29分53秒	①切木かけっこ 28分20秒
②鷹島陸上クラブ <small>(偉駄)</small> 32分23秒	②佐賀玄海ボーイズA 29分17秒
③調川ランナースB 33分09秒	③調中野球部 29分24秒



特産品のお茶をもっと身近に

お茶の淹れかた教室

お茶の淹れかた教室が2月7日、松浦高校で開催されました。

この事業は、県北地域(佐世保市、松浦市、佐々町)の茶の生産者で組織する「ながさきグリ茶研究会」が主催するもので、同研究会は、茶の消費拡大や栽培に関する研究活動を行っています。お茶を飲む習慣を次世代の家庭に受け継いでもらいたいと、社会に出てお茶を出す機会が増える高校3年生を対象に、4年前からお茶の淹れかた教室を毎年開催しています。

今回は松浦高校3年生69人が体験。産地や効能といったお茶の知識を深め、実際にお茶を淹れて茶葉やお湯の量、浸出時間で味が変わることを経験しました。

身近な飲み物であり、地域の特産品であるお茶の魅力を改めて知る良い機会になりました。



さらなる高みを目指して

鬼塚翔太選手が市長表敬訪問

第95回東京箱根間往復大学駅伝競争(箱根駅伝)で第1区を力走し、チームの総合優勝に貢献した志佐町出身の鬼塚翔太選手(東海大学体育学部3年次生)が1月24日に市役所を訪ね、友田市長に駅伝の抱負や今後の目標などを伝えました。

鬼塚選手は、「箱根駅伝では個人としては課題の残る結果となった。最終学年としての今後のレースでは、結果を残す走りをしたい。卒業後は実業団に進みたいと考えているが、まずは目の前の大会に集中して臨みたい」と話されました。翌日は母校である上志佐小学校で講演会を行い、子どもたちに走る楽しさを伝えてくれました。



地域の稼ぐ力を向上させる

地域経済構造分析講演会

地域経済構造分析講演会が2月1日、文化会館で開催され、市内の企業・事業所の従業者など約100人が参加しました。

今回、岡山大学特任教授の中村良平氏を講師として招聘。「まちの稼ぐ力を高めるまちづくり構造改革」と題し講演が行われ、中村教授は、地域活性化の実現には地域の経済力を知り、地域の強みや課題の所在を把握することが重要だと力説されました。

地域経済構造分析とは、地域経済を見える化して地域の特性を分析した後、効果的な立案、実行、検証などに広く利用するものです。この日は、松浦市の昼夜間人口、所得、税収などの各種統計データを例に、定量的データの分析・検証やアプローチの仕方などを説明され、参加者は数字による裏付けの大切さを再確認しました。

